

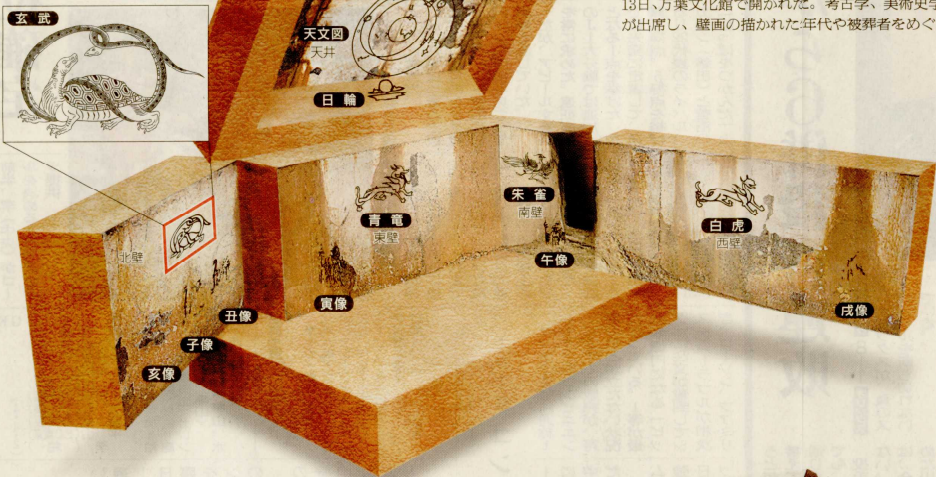
総括シンポ

玄武の謎にせまる

解き放たれた神秘

キトラ古墳石室イメージ図

(来村教授の図をもとに作製)



奈良県明日香村の特別史跡・キトラ古墳(7世紀末～8世紀初め)の玄武壁画が同村の奈良文化財研究所飛鳥資料館で、27日まで特別公開されていることを記念した総括シンポジウム「玄武の謎にせまる」(奈良県立万葉文化館、明日香村、奈良文化財研究所、朝日新聞社主催)が13日、万葉文化館で開かれた。考古学、美術史学、歴史地理学の専門家が出席し、壁画の描かれた年代や被葬者をめぐって議論が白熱した。

千田稔 百橋明穂 来村多知史

国際日本文化研究センター教授 歴史地理学 神戸大学教授(美術史学) 奈良文化庁短期大学教授(日中考古学) (司会は天野幸弘・朝日新聞記者)



千田氏

蛇と鳥絡み合った玄武の姿はなぜ生まれたのか。星屋が蛇と鳥の姿に見えるために生れたとされるが、古い図を見ても、かなり無理をして蛇と鳥の形にしている。

私にはインドの影響を想定している。紀元前1世紀頃から伝わる神話に、ヒンドゥー神が不老不死の薬をつづるという場面がある。ヒンドゥー神が住む世界の中心の須弥山は鳥の上に載り、その山に蛇が巻き付いている。それを神々と魔神が引き合い、海をかき混ぜると、海が不死の薬ができる。カ

インド神話 源流か

オス(混血)からコスモス 秩序が生まれる場面。一方、中国の道教では水中の竜が「龍神」として仙人の住む山を支えている。日本書紀によれば、飛鳥の多武峰の頂上には「天宮」、つまり仙人の住居「イメテ」した道教神話があった。万葉文化館のすぐ隣にある鳥形石物は、この仙境を背負ったものに配置されている。



来村氏

キトラと高松塚の壁では、私はキトラが先に描かれたと考える。縄の返り線写すものに、絵はほとんど崩れている。しかし、描かれた方が時代が先で、崩れている方が後と判断できる。実在の扉は腹に甲羅(腹甲)があるが、キトラ、高松塚の玄武には腹甲がない。元はつた腹甲が、何度も厚されるうちに退化したらしい。よく見るとキトラの玄武は前胸の付け根に小さな字形のふくらみが描かれている。高松塚の玄武にはない。

時代、高松塚より先

武では、腹甲が正しく描かれたものと、模様のうちに「退化」したものが混在する。腹甲が退化した玄武の一例に、キトラのものに似たC字形の線がある。キトラと高松塚の壁を手がけたとみられる同一の絵師(もしくは絵師集団)は、中国で後者を原図として模写するのは、キトラではC字形の部分で忠実に描いたものの、その後の高松塚は意味がないの直前に違っている。キトラでは天井に星、日月を天井と壁の間の傾斜部分に描き、四方の壁の上部に四神、その下に十二支を配した。被葬者の魂を天に上昇させるための構成だ。一方、高松塚は天井に日月を壁の上部に描き、四神は人物像の足元の位置まで落ちてしまっている。絵師ならな天を見て、腹を立てたことだろう。



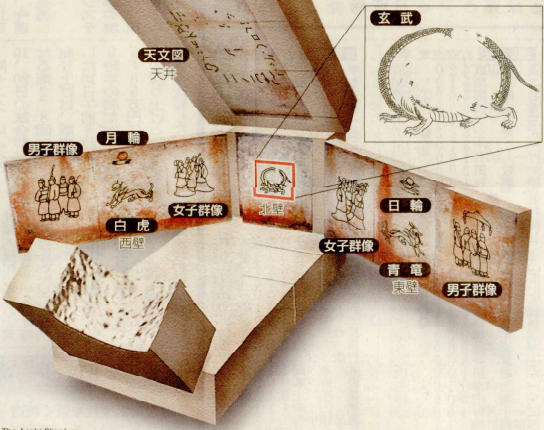
百橋氏

構図から「失敗作」

意味は理解されていなかった。7世紀の「四神文鏡」は、キトラの雲母に近しい。玄武を含む四神はそれぞれ石室の向左右に回りに配置する構図に向いている。玄武はキトラの壁のようにならなくなる。中国では、紀元前1世紀の墓に描かれた絵に、蛇が描かれているが、蛇にはない。しかし、紀元15年の墓では玄武の姿に、全体的な印象が、キトラの玄武と描線を力強く描き、原図を忠実に写した高松塚の玄武の方が先に描かれたと考える。唐時代以降、中国の鏡に於けるのは十二支ばかりで、四神は姿を消す。だが玄武は北を守護する玄武大帝という神になり、信仰された。仏教では梵僧普賢の、日本でも鳥の背に乗って蛇を手に持つ妙見菩薩像が作られている。

高松塚古墳石室イメージ図

(来村教授の図をもとに作製)



同じ盗掘犯か

玄武はどのようにして登場したのか。来村 西暦時代(紀元前11〜10世紀)の四神は、竜・虎・鳥に加えて龍も含まれた。高松塚の玄武は紀元前後の武帝の陵のわんかには、蛇と、水軍をえまえる鳥が龍を向かい合わせで玄武が描かれている。盗掘穴の掘り方など手口が似ているから、先に盗掘したのは高松塚で、南壁の玄武は盗掘後に削り取られたと推定して、真ん中に大きな意匠として穴を開けた。しかし壁の端を削った方が楽だと考え、キトラの盗掘ではそうしなかった。そのおかげでキトラの朱雀が崩落せずに残った。高松塚には盗掘者が立ち、高い位置から玄武に腹を立て、おの意匠をまたたけかけた。キトラでは鳥の頭の後ろに「奔らむらむ」まで描かれる。キトラ、中国の古字典には「蛇は雌しからず、雄は雌は陰陽思想の陰と陽に反対する」と説明されている。雌から生まれるものは、玄武は物事の始まりの象徴である。高松塚の玄武は中心部が削れていた。

死者の昇天

「一種では雌しからず、雄は雌は陰陽思想の陰と陽に反対する」と説明されている。雌から生まれるものは、玄武は物事の始まりの象徴である。高松塚の玄武は中心部が削れていた。

百濟王家の墓

来村 天武天皇の墓の一人である。キトラと高松塚は立地が似おり、風水の思想から谷の北に背を向けて造られている。同時期の中尾山古墳も谷を背を向けて造られている。百橋 天武天皇の墓に壁画がないのに、皇族ではない、海外の最新流行を探り出された立場の人だ。百橋 天武天皇の墓の天皇は八角形の墓に埋葬された。天宮の皇子の墓は三角、天皇の墓は正方形、高松塚は四角、おそ、亡命してきた百濟王家の人物の墓ではないか。